『ファウスト』脚注の試み（22）

渡　辺　信　生

WALPURGISNACHTSTRAUM

oder

OBERONS UND TITANIAS GOLDNE HOCHZEIT

INTERMEZZO

ワルプルギスの夜の夢　或いはオーベロンとティターニアとの金婚式

（Vers 4223－4398）

渡　辺　信　生

Faust I の筋のない Blocksberg-Theater としてここに収められたものは、明らかに本来必要なもの、観客に提供されたもの、成功したものではない。„Musenalmanach für das Jahr 1979" に発表した時代諷刺の Xenien-Scharmützel の続きとしてゲーテは、妖精の王と王妃 Oberon と Titania の、金婚式のモティーフを回って書かれている諷刺詩をまとめていた（この二人の争いと和解は、Shakespeare の Sommernachtstraum の中ですでに表現されていた。それから Wieland の Stanzen-Epos Oberon 1980 や、1796 年に Weimar で上演された Wranitzky の同名の Operette でも扱われていた。）この諷刺詩をゲーテは翌年の Almanach に載せるためにシラーに預けた。シラーはこれを印刷しなかった。その結果ゲーテは „inzwischen erheblich vermehrt würden sie im Faust am besten ihren Platz finden" とシラーに書き送った（Briefwechsel 2. 10.／20. 12. 1797）。こうした由来の痕跡を Intermezzo に見ることができる。

一連の動機上の対応や人物上の対応によって Intermezzo は、それ自体としては同様に一連の時代諷刺的な、寓意的なタイプらしい人物たち（General, Minister, Parvenü, Autor, Proktophantasmist）を取り入れた Walpurgisnacht に、緩やかに結び付けられた。だがかなり子供じみた（故意か）「素人風の」Verse は、本来の Walpurgisnacht の場のドラマの力や言語のすさまじい力に（サタンの場を欠いたその最終稿に於ても）耐えるものではない。例えば Vischer は次

のように述べている。「全体は無責任な軽薄さと呼ばれ得る永遠な詩の中に、諷刺の切り藁をばら撒くことである」(F.Th.Vischer 1875, 54)。これを覆してWalpurgisnachtstraumを、Faust文学の首尾一貫した、必要な、まさしく欠くべからざる、有機的な構成要素として、表現しようとする解釈者たちの努力は、終ることはなかった。

あとの第二部のMummenschanzに於けるように(5065ff.)、この場のMaskeraden-Spott (4267) の際には、Heroldによって芝居の人物たちが予告されている。彼らは自分たちの様子を述べたり、説明したりする。或いは性格不明の他の話者によって紹介されたり、解釈されたりする。彼らが時代批判の意図に役立つ限りは、多かれ少なかれはっきりしたグループに分けられる。先ず第一に芸術と文学のグループ、次に哲学のグループ、最後は政治、社会諷刺のグループである。その際ケース・バイ・ケースで「意図された」人物たちは、確かに同時代の人であると確認することは殆どできなかった。著者にとっては恐らく時代の典型的な考え方や行動の仕方の方が、むしろ大事だったのだろう。そのためにゲーテは特定のモデルを利用したのである。そこで読者は自分の生活の範囲で、それらに気付いたり、発見したりしなければならなかった。

確かにIntermezzoの4行詞のテクストが歌われたとは、殆ど考えられない。がしかしそれは(終始?)ブンブン言うハエや蚊、ガァガァ鳴く蛙、リンリン鳴くこおろぎなどから編成されたオーケストラによって、バックに音楽が流されている。1812年ワイマルでの上演を計画するに当って、ゲーテ自身このWalpurgisnachtstraumの削除に同意した。(Schöne)

内容から見て全体の構成は次の通りである。

Einleitung：V.4223－4258.

Mittelstück

Teil A：V.4259－4330.

Teil B：V.4331－4366.

Teil C：V.4367－4386.

Abschluß：V.4387－4398. (Dietze).

Intermezzoの詩節は、成立史的にも内容的にもZahmen Xenienに属していて、一貫して作られたものではない。勿論一つの基本型を確認することはできる。即ち、Kreuzreimで、各詩節の1行と3行は主としてtrochäischでvierhebig、男性韻である。2行と4行はこれに反してjambisch, dreihebigで女性韻である。しかしV.4228, 4243, 4317f., 4343, 4371, 4373f.は、規則的に強調が交替する

詩行ではない。一般的にはKreuzreimであるが、例外は詩節7, 10, 41, 42で、それぞれ半分のKreuzreimを示している。従ってWalpurgisnachtstraumには全体として形式上の、即ち、韻律上の統一は完全に欠けている。それ故この場は、Faustの不可欠の構成要素であるという、依然として議論されているテーゼを支持するために、形式についての論拠を用いる可能性はなくなるのである。(Ciupke).

Intermezzo —— ital. von lat. inter, zwischen, und medium, Mitte; kurzes, selbständiges Zwischenspiel in der Musik und auf der Bühne. (Reclam).

4223. Theatermeister —— maschienenmeister eines theaters. 劇場の技術監督。(Grimm). ruhen wir —— 素人たちが (V.4218) 舞台装置のない野外劇場で芝居をするので、することがなく休みになる。(Schöne).

4224. Miedings wackre Söhne —— Johann Martin Mieding (1925－82) は、ワイマルのLiebhabertheaterの舞台装置に権限を持つHoftischlermeisterだった。彼のSöhneというのはBühnenarbeiterのこと。(Schöne).

4225. Alter Berg —— der Brocken. (Arens).

4226. Das —— 前行のこと。Szene —— Szenerie. (Lange).

4227. Herold —— Ansager. 第二部のレビューのようなMummenschanzの場で再び登場する。(Schöne). このドラマはレビューのような性格しか持たない。銘々登場すると、自分のVersを言って退場する。Heroldは謂わば登場する人物を導入する役割である。(Beutler). OberonとTitaniaの結婚から50年が経過しているということが、このドラマの前提になっている。しかしHeroldにとっては、二人の間の争いが調停されたことの方がもっと好ましい。 —— ShakespeareのSommernachtstraumでは、Titaniaに仕えるインドの美少年に、Oberonが嫉妬するのが争いの原因になっている。(Trendelenburg). Daß —— Damit. (Schröer). seiはDaß (Damit) に応じたもの。

4228. Sollen —— Müssen. funfzig —— 19世紀にはまだUmlautのない形が優勢だった。(Schöne). Jahr —— Jahre. 古い無変化の複数形。(Fischer). vgl. V. 361, 2361, 2627, 3997.

4229. ist der Streit vorbei —— wenn der Streit vorbei ist.

4230. Das Golden —— „Das" にアクセントを置く。(Schmidt). Das goldenの版の方が多い。G(g)oldenは3行上のgoldenをそのまま繰り返したもので、Das Goldの意。50年すぎたgoldenより、争いのすぎたgoldenの方が

好ましいということ。

4231f. Oberon —— Shakespeare の Sommernachtstraum に出てくる妖精の王。(Schöne). = Wenn ihr Geister (da) seid, wo ich bin. zeigt's —— zeigt es. es は前行のこと。zeigt は ihr に対する要求。= Wenn ihr bei mir seid, so zeigt euch jetzt. (Gaier). 傍に居るなら、いま姿を現わせ。

4234. Sie —— 前行の王と王妃。aufs neu(e).

4231－34. ぎこちない話し方であるが、正確に韻を踏んでいる。Oberon は丁度近くに居る霊たちに、金婚式と重なる和解の祭典に参加するように無造作に頼む。(Arens).

4235. Puck —— Shakespeare の „Sommernachtstraum" の妖精で、Oberon と Titania の仲直りの膳立てをする。その際妖精たちは、お祝いのバレーや輪踊りをしたりして、王と王妃に敬意を表わす。その輪舞には文学、芸術、政治に関わる人物たちが紛れ込んでいる。(Königs). Kommt —— (Es) kommt.

4236. schleifen —— gleiten lassen, gleitend fortlassen. (Fischer). Reihen —— Reigen. =eine Art Tanz, bes. der Fruhlings- und Sommertanz, wobei man ursprgl. in langer Reihe hintereinander über Feld zog. (Fischer).

4237. Hundert —— 100人。hinterher|kommen.

4238. Sich —— (Um) sich. ihm —— Puck 自身。

4239. Ariel —— Shakespeare の „Sturm" に出てくる優しい Luftgeist で、あらゆる地上的な存在を超越するものの化身。Intermezzo のそっけない Verse は、歌う気分にするものではない。(Lange). „himmlisch" な Ariel と対立するのは Puck である。(Gaier). Ariel は相い次ぐ登場人物たちを、Puck から予告された輪舞に誘う。(Düntzer). Ariel はその歌声によって心をそそられる霊として用いられている。第二部では(V.4613f.) Ariel は善良な Elf として登場する。(Endres). bewegt den Sang —— den Gesang anstimmen. 歌を歌い始める。(Trendelenburg).

4241. Fratze ——(lächerlich) anmaßender, unverschämter, auch alberner, törichter Mensch. (Goethe Wb.).

4242. er —— sein Klang. die Schönen —— ゲーテの意味に於ける調和のとれた心の持ち主。„die schönen Seelen". (Lange). 純粋な響きは愚鈍で物好きな観客を惹きつけるが、美しき魂の人々をも惹きつける。(Petsch).

4243. Gatten,die —— 先行詞と関係代名詞。

4244. Lernen's ! —— Sollen es lernen ! (Schröer). Lernen は接続法第1式で要求。es は前行の sich vertragen.

4245. sich —— einander. zweie —— 二人。名詞的用法。=Wenn man will, daß zweie sich lieben. 二人に互いに愛し合って欲しいのなら。

4246. nur zu tun brauchen. sie —— zweie. 4行とも女性韻はこの詩節だけである。

4247. Titania —— Sommernachtstraum の妖精の王妃。名前からすると当然地中海の伝説の世界に属する。Mann —— 夫。Frau —— 妻。grillen —— (seit Beg. des 18. Jhdts.) Grillen fangen, Launen haben. (Fischer). sich launisch, kapriziös verhalten. (Goethe Wb.). =Wenn der Mann schmollt und die Frau grillt.

4248. faßt —— ihr に対する命令法。次行の Führt も同じ。sie —— Mann と Frau.

4249. mir —— 心からそう思っていることを表わす。Mittag —— Süden. (Gaier). Sie —— Frau. 大文字は強調。次行の Ihn(Mann)も同じ。小文字の版もある。

4250. an Nordens Ende —— in den höchsten Norden. (Lange).

4251. Orchester Tutti. Fortissimo —— Orchester Alle. Ganz laut. (Königs). Tutti —— nach dem it. tutti(alle)=allgemeiner Gesang. (Fischer). Festzug の伴奏をするるために、オーケストラが始まって自己紹介をする。(Witkowski). —schnauze=hervortretendes Maul der Tiere.(Fischer). —nas' —— —nase. こうした名称を文字通りにとろうとするなら、そしてこれらの音楽が Summen, Sirren, Quaken, Zirpen のような純粋な自然の音から成り立っていると思うなら、実際 Fliegen や Mücken ではなくて、Fliegenschnauz' や Mückennas' が話しているということを見逃すことになる。これは仮装した人物たちと考えられる。こうした人物たちの名前については、ゲーテは「真夏の世の夢」の中の Spinweb, Senfsamen, Erbsenblüte という奇妙な妖精の名前から、どうやらインスピレーションを得たらしい。„Frosch im Laub" と „Grill' im Gras" もそのような名前として理解することができる。(Arens).

4254. Das —— 上3行をまとめたもの。行末の感嘆符は素人芝居を強調する皮肉な感嘆符で、V.4226 の感嘆符も同じ。(Schöne).

4255. Solo —— Solo-Instrument. (Arens). einer aus dem Chore. (Schröer). Seht

—— ihr に対する要求。2行下の Hört も同じ。Dudelsack —— 風笛。バッグパイプ。„Solo" は独奏の楽器を意味する。その役割は V.4341でもう一度言及される。この Vers の形式と否定的な内容からすれば、この話は聴衆の一人に割当てるべきだろう。しかしこの演奏では、彼が悪気なく自分自身を紹介していることもあり得る。Shakespeare の芝居である役を演じている職人のように。„Schneckeschnickeschnack" によって、一オクターブの音域しか持たないこの楽器の単調さが、また „durch seine stumpfe Nase" によって、軽く鼻にかかる響きが描写されている。同時にしかし膨らまされて、玉虫色に光る表面以外の何者も意味しない誰かの空虚なおしゃべり —— 従って如何なる内容も持たない純粋な形式が —— この „Seifenblase" によって的確に表現されている。(Arens).

4256. Es —— 前行の Dudelsack. Seifenblase —— シャボン玉は形が似ているばかりでなく、同じように空気で膨らむので、風笛として用いられている。(Witkowski). Dudelsack, Seifenblase は、恐らく自分の芸術を自ら声高に賞賛するが、その作品を読んでみると、大したものではないことが直ちに明らかになるような作家を諷刺したもの。(Erler).

4257. Schneckeschnickeschhnack —— lautmalende bildung, die an schnickschnack sich anlehnend die töne des dudelsack characterisieren soll. schnickschnack —— leeres, wortreiches, einfälliges geschwätz. norddeutsches wort, dem nd. snicksnack entsprechend. schnack —— geschwätz, geplapper, dummes gerede, dummes zeug. (Grimm).

4258. eine stumpfe Nase —— 団子鼻。

4255－58. この言葉を言うのは Dudelsack 自身。(Witkowski). シャボン玉が現われる。出す音は鈍い風笛の音、Schneckeschnickeschnack という音である。以下の詩節の芸術家や詩人に対する関連に於て解釈すべきである。(Trunz).

4259. Geist, der sich erst bildet —— Der noch in Bildung begriffene Geist. (Arens). この霊がここで自ら話していると推測することはもはやできない。(Arens). 前の Verse と同じく話しているのは eine Stimme aus dem Chore. (Schröer). この Verse は未完成の霊自身によって語られているのか、それとも役者の一人がこの霊について語っているのか不明である。(Thomas).

4260. Wichtchen —— < Wicht＝Geschöpf, Wesen. (Fischer). ちび、小僧。dem

Wichtchen のあとに gehören を補なう。

4261. ein Tierchen gibt es nicht —— ein richtiges, lebensfähiges ergibt sich aus solchen Bestandteilen nicht. (Schöne). ein —— solch ein. 次行も同じ。Zwar ... Doch.

4262. Gedichtchen —— Flügelchen や Spinnenfußなどの種類の違うものを、一つにまとめている小さな詩。高度なものを求めていても、結局は現世の低俗なものの中にはまり込んだまま、動きのとれない詩。ゲーテがシラー宛の書簡の中で、時折り Tragelaph (d.h. Bockshirsch, nach dem Griechischen) と書いているあの不自然なこしらえ物の一つ。(Trunz).

この霊は生成の内的矛盾によるだけでなく、小さなサイズ(Wichtchen, Tierchen, Gedichtchen)によってもその特長が示されている。ゲーテが誰のことを言ったのか、という憶測はやめるべきだろう。蜘蛛の脚、ひきがえるの腹のような人間の、一般に不快なものの在り得ない結合が、精神的な意味で適合し得る人間など全く考えられない。こうしたことの外面的なしるしとして、-bauch に対する Reim が欠けている。(Arens).

4263. Ein Pärchen —— Ein ungleiches Paar. 不釣合のカップル。一方のちょこちょこした歩みは、他方の空間への跳躍と調子を合わせることができない。Halbhexe が Hexe と歩調を合わせることができないように。(Alt). ここでも具体的な関係を突きとめることはできない。「仰々しい Poesie」と「せっせと励む Prosa」との対立を指摘した人もいる。(Erler). ゲーテが特定のカップルを考えていたということはすぐ思いつく。Jacobi 兄弟かも知れない。(Arens). このカップルは話しかけられるのか、それぞれが2行ずつ話すのか、どちらかである。(Schmidt). =(Wir machen) kleinen Schritt und hohen Sprung.

4264. Honigtau —— 植物の表面のべたつく、甘い液体。それにあぶら虫(blattläuse) がつくと植物が傷む。古い迷信によれば、空から降ってくる、また予言者や使徒の木にも空から降ってくる、と信じられていた。(Grimm).

4265. du —— カップルの一人。mir —— nach meiner Meinung. genung —— genug. im Reim. vgl. V. 2139, 3572, 3727. (Fischer).

4266. geht's —— geht es. es は非人称。

4267f. Neugieriger Reisender —— Friedrich Nicolai. (vgl. V. 4144f.). 無味乾燥な啓蒙主義者 Nicolai は、Oberon の姿を見てまったくの仮面だと思う。(Endres). das —— 2行と3行下の zu 不定詞句。Spott —— 曽っては

Scherz, Spaß の意。従って im Ernst, aufrichtig の代りに ohne Spott が用いられた。現在ではもっと狭い意味で、他人の Fehler や Schaden に対する喜びの表現。(Heyse). 英訳では：„trick, fraud, silly masquerade" など。

4268. Soll —— 疑問。信じてよいだろうか。den Augen —— 3格。

4269f. 見るべきものがあればどこにでも出かける Nicolai は、醜悪な霊たちの間に、美しい神 Oberon を見て驚く。(Trendelenburg). この好奇心の強い旅行者を、すべての注釈者たちは Nicolai であると主張しているけれども、そうではないということは、Nicolai が Oberon の存在を認めたり、Oberon を美しい神と呼んだりしたことは決してあり得ないことから明らかである。Pretorius によれば Nicolai は、好奇心から Hexensabbat に出かける大勢の人間の一人にすぎない。「今日ここで」会うのは Teufel や Hexe だけだろうということを Nicolai は知っているので、Oberon は実際芝居を演じている役だとしか思うことができない。(Arens).

4270. Auch —— アクセントを置く。(Witkowski). この Auch は前の行にかかる。美しい神 Oberon も。この zu 不定詞句は ... を見ようとは！＝Daß ich auch Oberon den schönen Gott heute hier schaue !

4271. Orthodox —— von griech. orthos. aufgerichtet, gerade, recht. doxa, Meinung, Glaube：„rechtgläubig." 18世紀には der Orthodox という語尾変化のない形が普通だった。(Reclam). ＝der Rechtgläubige. この Orthodox は信仰に関しては、天使でなければ悪魔であるというただ一つの可能性しか持たない。Mephisto 自身時代遅れ（V. 2498）と言っているにも拘らず、瓜と尻尾を持った悪魔のイメージを自明のことと思うほど、古い正統派なのである。(Arens). ＝(Er hat) keine Klauen, keinen Schwanz!

4272. es —— 以下２行のこと。

4274. er —— Oberon.

4271－74. この Orthodox は例外なく Graf Friedrich Leopold zu Stolberg (1750－1819) と見なされている。1788年にシラーの詩 „Die Götter Griechenlands" (in Wielands Teutschem Merkur 1788) を、ある程度の事実に基づいた正当化がないわけではないが、賞讃に値しないものを賞め讃えているとして、狭いキリスト教の立場から手厳しく批判していたからである。すでに Xenien 294 がこうした神々の誹謗をからかっていた。Stolberg はしかしギリシャの神々を、悪魔と呼ぶほど思い上がっていたのではなかった。彼の論文は節度があり、シラーの詩人としての素質も評価している。しかしな

がら遙かにより良きもの、より高いものによって、とうの昔に克服されたものを、シラーが賞め讃えているのを見て、敬虔な伯爵の心は痛んだのである。私はゲーテが彼を更にまた不当に告発して、ここでもう一度攻撃しようとしたとは思わない。そうではなくて一般に両方の宗派の偏狭な正統派を攻撃しているのである。(Arens).

4273f. wie die Götter Griechenlands ... eine Teufel —— ゲーテはキリスト教が民衆の習慣や伝説や進歩的な芸術観の中に生き続けている異教の諸要素を迫害して、キリスト教以前の考え方を悪魔化しようとした、その狂信的な熱意をカリカチュアで諷刺しているのである。正統的キリスト教の見解に依れば、古代の神々や英雄たちは、キリスト教世界の中にも密かに存在している。人間を美や官能的悦楽へ、罪へと誘惑するのは悪魔や悪霊なのである。Heinrich Heine はのちにドイツ古典主義の思想に結びつけながら、現世を敵視するキリスト教の精神主義とは逆に、人間の地上の幸福を目的とするこの「異教の」伝統の革命的傾向を、まさに強調したのである。(vgl. Heines Schriften „Zur Geschichte der Religion und Philosophie in Deutschland", „Elementargeister", „Die Götter im Exiel"). (Erler).

4275. Nordischer Künstler —— この「北方の芸術家」を、古典主義の芸術家 A. J. Carstens (1754－98) に関係づけるべきではないだろう。確かにこの芸術家が、入り乱れた大勢の魔女や悪魔や、その他の顔の歪んだ霊たちを目の当りにして、全体としては醜悪なこれらの姿を、スケッチ風にしか把握出来ないのに気付き、形式による芸術的成熟と克服に到達するには、イタリヤに芸術旅行をして、ローマ人やイタリヤ人が、芸術に対する別の理解力や別の世界感覚、空間感覚を以て生み出したような、彫刻と絵画の完成された形式の研究が必要であると悟るということは、肯定的に評価しなければならない。しかしそれにも拘らず依然として彼は、「北方の」芸術の代表者なのである —— 二度のイタリヤ旅行後の Dürer のように。

更に、„Einleitung in die Propyläen" (1798) に於ける次のようなゲーテの言葉も考慮する必要がある。「ドイツの芸術家にとって、一般に新しい北方のどんな芸術家にとっても、形のないものから形式へと移行することは困難である。事実殆んど不可能である。たとえ彼が形式の高みに近ずくほど突き進んだとしても。」北方の芸術家は、イタリヤで古典的な人間の形式を研究し、模写するのを学ばねばならないとゲーテは言う。こうしたすべてのことから、適当な時期にだけイタリヤ旅行の準備をする、ここの

顔のない「北方の芸術家」は、「真の芸術家」、従ってアーリエルからも誘われる「美しき魂」の一人と見なすことは出来ない、ということが明らかになる。vgl. M u. R. 1088, 1089, 1091. (Arens). ergreifen —— in sich aufnehmen, von den Gestalten der Umgebung sich zu eigen machen. (Fischer). heut(e) —— solang er noch im Norden ist. (Schröer). heut は２行下の Zeit を押韻する。

4276. skizzenweise —— ゲーテは Nicolaus Meyer に宛てた書簡の中で、才気に溢れてはいるが暗い気持に対するスケッチと、治療としてのイタリヤ滞在について語っている。(Briefe an N. Meyer 10. Okt., 15. Nov. 1804). (Schmidt). „Der Sammler und die Seinigen, 8. Briefe, 6. Abteilung." の中でゲーテは、何れにせよ「現実」の輪郭のような下絵であるスケッチは、完成された形式とはまさに反対のものであると書いている。(Arens).

4277. bereite mich —— sich bereiten = sich rüsten, sich vorbereiten. (Fisher). bei Zeit —— beizeiten.

4279. Purist —— 度のすぎた熱心さで、国語から外国語の要素を削除したり補ったりする言語学者に対する（嘲笑的な）名称。ここでは比喩的風刺的な意味での狭量なモラリストの意。彼らは性的なことに対する単なる羞恥心から、裸の表現、例えばゲーテが „die Römische Elegie" (1790) の中で讃美したような、自然な感覚の悦びに反対するのである。(Erler).

J.H.Meyer に宛てた書簡の中で（vom 20. 6. 96）ゲーテは、„Briefe zur Beförderung der Humanität" の第８集に於ける Herder のドイツ文学批判について、「諸芸術は道徳律を承認しそれに従うべきだ・・・」という古い生半可な俗物の退屈な調べがまたしても鳴り響いている、と極めて否定的に語っているので、Herder を指しているのかも知れない。(Arens). her —— hierher.

4280. nicht —— 訳す必要はない。geludert —— ludern = sich gegen den anstand aufführen, unordentlich leben oder handeln. (Grimm).

4282. zweie —— 独立的用法の１格。gepudert —— pudern = mit puder (=haarpuder, haarmehl) bestreuen. (Grimm).

4283. Junge Hexe —— 観衆の中のこの魔女(雄山羊に乗っているのでダンスに参加することは出来ない)の言葉は、始めて前後の人物の言葉と関係がある。彼女は Purist の話によって、自分が攻撃されているのを感じて、衣服やパウダーによる美化を必要とするのは、年取って美しくない者だけだ

と挑戦的に答える。若々しい裸体は、オーケストラのメンバーの反応が示しているように(V.4291f.)、まさに求められるが故に美しいのである。これが言わば裸、もしくは美しさについての実際の理解の仕方なのである。(Arens).

Aphrodite Pandemos は Skopas (4. Jh. v. Chr.) によっても、裸で雄山羊に乗った姿をしたブロンズで表現されていた。Phidias (5. Jh. v. Chr.) の黄金と象牙製の Venus Urania とは正反対である。(Loeper).

4283－86. 若い魔女はパウダーと衣服は、醜さを覆い隠すためにあると強調する。他方古典古代の芸術に表現されているような美は、モラルを傷つけることなく裸で登場することが許される。芸術に於ける裸体の正当性を回る争いは、今日に到るまで続いている。(Endres).

4283－90. Baumgart によれば、すべての芸術運動 (Kunstübung) のうち、最も堕落した二つの特長が露骨に表われている。一方では厚かましい破廉恥なことしかしない自然主義者の粗野。他方では前者に匹敵する能力を全く持っていないという理由から、口汚なく罵ったり、呪ったりしながら、行儀よく振舞うお上品さ。(Alt).

4287. Matrone —— lat. matrona = verheiratete Frau. 芸術には全く理解のない市民の俗物性と偏狭さを代表する。(Endres). Lebensart —— gefälliges Benehmen, gute Sitte. (Fischer). zu viel —— 次行の Um ... zu 不定詞句と結ぶ。

4288. maulen —— (bei Luther mäulen), unwirsch das Maul hängen lassen, d. h. sich unzufrieden od. verdrießlich zeigen, keifen und schmollen. (Fischer). zanken. (Petsch).

4289－90. sollt ihr...verfaulen —— 若くて柔らかなまま腐るがよい。So wie ihr seid —— wie ihr leibt und lebt. verfaulen —— sterben, im Grab modern. (Loeper).

4291－94. 合奏する小さな昆虫たちは、美人の裸の魔女に興奮して拍子を狂わせる。(Endres).

4292. Umschwärmt —— ihr に対する命令法。2行下の bleibt も同じ。mir —— 頼むからという気持を現わす。

4294. So...doch —— 語気鋭く命令を強める際に so を加える。auch —— お前たちも (Frosch と Grille に対して)。im Takte bleiben —— 拍子をくずさない。

4295－4302. Windfahne —— wetterfahne, als sinnbild der unbeständigkeit; daher unbeständiger, doppelzüngiger mensch. (Grimm). 日和見主義者のアレゴリー。悪魔の情事のために Blocksberg に集まった Hexe と Hexenmeister に対して、一方では無害なものとして好意的な、他方では根こそぎにするほど否定的な意見を述べる。(Schöne).

この Windfahne は大抵 Johann Friedrich Reichardt (1752－1814) と見なされている。彼はジャーナリスト、作曲家として活躍し、とりわけ意地悪と受け取られた冷淡な評論によってシラーを怒らせた。Xenien でも取り上げられたが、これらすべては彼が依然としてゲーテのために、作曲の注文を仕上げる妨げにはならなかった (作曲は1808年までに大小115編にも達した)。この極めて有能な人物が、Jena や Weimar で人の感情を害したのは、彼が尊敬の念に満ちた臣下ではなくて、敢えて常識を外れた美的判断や政治的意見を述べたからだった。Windfahne の叱責は恐らく Reichardt には該当しなかっただろう。

Windfahne の正反対の発言に見られる自発的感情的で、大袈裟な対立関係は、明らかにゲーテの曾ての友人 Friedrich Leopold zu Stolberg の特長を示している。Xenien の幾つかは彼と兄の Christian に向けられていた。彼らはその詩集 (1179年) の表紙絵の銅板画に因んで Kentauren と呼ばれている。„Als Centauren gingen sie einst durch Wälder und Berge, ／ Aber das wilde Geschlecht hat sich geschwinde bekehrt." (Distichen Nr. 290 „Das Brüderpaar")

ゲーテとのスイス旅行で、戸外での前代未聞の裸の水浴という、見せびらかした自然への耽溺は、ひどく几帳面なお上品さに一変した。フランス革命の始まりに対する熱狂は次第に消えて、階級制の貴族支配による専制政治の支持に変った。更にプロテスタントから尤も規律の厳しい反動的なカトリックへの転向がこれに加わる。これらすべては Stolberg に関係づける Windfahne の解釈を支持するものである。(Arens).

しかしE.Trunzによれば、弟の Friedrich Leopold がシラーの „Die Götter Griechenlands" に於けるキリスト教とその文化の意義についての、一面的な叙述を批判したのは当を得ていた。Xenien によって不当な目に会った人々の一人である Stolberg は、品良く沈黙を守って、後になってもゲーテに根を持つことはなかった。

4295. nach der einen Seite —— Zur Jugend : nach der jungen Hexe.

(Trendelenburg). Gesellschaft wie ... —— (Ihr seid eine) Gesellschaft wie man (sie sich) wünschen kann. Gesellschaft —— Hexen, Hexenmeister. (Reclam).

4296. lauter —— durchaus, nichts als.

4297. Mann für Mann —— jeder einzelne, alle. = Und (ihr seid) Junggesellen, ...

4299. nach der andern Seite —— Zum Alter : nach der Matrone. (Trendelenburg). tut sich nicht der Boden auf —— wenn sich nicht der Boden auftut.

4300. (Um) sie alle zu verschlingen. sie alle —— V.4295 の Gesellschaft.

4301. mit behendem Lauf —— bloßes Versfüllsel. (Arens).

4303. Xenie f., Xenion n. —— 2 行の (spott-)epigramm. ギリシャ語の gastgeschenk の意。ゲーテとシラーの主として論争的な distichon によって、1797年の musenalmanach に於て市民権を与えられた。その主なグループは Martial (40-100頃) の epigramme からヒントを与えられており、xenien という名前はその epigramme の第13巻のタイトルから借りたもの。そしてこのタイトルを皮肉な見方をする語義の新解釈によって文学的な術語に変えた。ゲーテの1795年12月23日付のシラー宛書簡では、複数形はまだ xenia であったが、同26日の書簡ではもう xenien になっている。ここから溯って fem. sg. xenie という形が作られた。それに比べて xenion n. は極く稀にしか用いられない。musenalmanach の „wilde xenien" の概念とは対照的に、1827年に初めて編集して刊行された自らの altersepigramme の主要なグループを、ゲーテは zahme xenien と名付けた。(Grimm). シラーは Xenien をまだ出来上がる前の1796年1月18日付の Körner 宛書簡の中で、„eine wahre poetische Teufelei" と呼んでいた。(Arens).

Als Insekten sind wir da —— 自らの心情を吐露する Xenien は、Satan の被造物として、厄介な (勿論昆虫学上は正しくないが、鋏を備えた) 昆虫として理解される。Xenien 作成の時期である1796年9月24日にゲーテは、Christian Gottlob Voigt (1743－1819) に宛てて、1797年の „Musenalmanach" について次のように書いている：„Wir lassen da zu gleicher Zeit geflügelte Naturen aller Art, Vögel, Schmetterlinge und Wespen, ausfliegen." (Lange).

4304. Mit kleinen scharfen Scheren —— 鋏のようなものを持った昆虫は存在しない。鋏を持っているのはクモやカニだけである。(Arens).

4305－06. Papa Satan —— vgl. V. 1516f., 6592-6615. ここで Mephisto ははっ

きりと昆虫たちの Herr und Vater と呼ばれている。(Arens). (Um) Satan, ... zu verehren. Nach Würden —— nach Gebühr, gebührend. (Fischer). 然るべくサタンに敬意を表するために。

4307. Hennings —— デンマークの侍従 August Adolf von Hennings (1746－1826) は、Kestner の友人で勤勉な作家だったが、1794年以来刊行していた雑誌 „Genius der Zeit" を、1800年には „Genius des 19. Jahrhunderts" に改題した。すでにこの名前からしてゲーテを怒らせていたが、その雑誌で彼がシラーの Horen や Musenalmanach を攻撃したので、なお一層ゲーテを怒らせることになった。Hennings は1798年に刊行した自らの詩集に „Musaget"といういかにも厚かましい表題をつけた。すでに Xenien は彼を話の種にしている。(Trendelenburg). Seht —— ihr に対する命令法。sie —— Xenien, die gleich zu Hunderten ausschwärmen. (Trendelenburg). the Xenien, those insects. (Heffner). sie: die Xenien Schillers und Goethes. (Reclam). 2行下の sie も同じ。Schar —— alle hier Auftretenden. (Lange).

4309. noch gar —— sogar noch. それ所か ... さえも。gar —— eine Vermutung, Befürchtung, Eventualität unterstreichend. (Goethe Wb.).

4310. Sie hätten gute Herzen —— „Wir haben gute Herzen." の間接話法。(越塚).

4311－12. Musaget —— Führer der Musen, Apollo. (Arens). Hennings は1798－99年に „Der Musaget, Begleiter des Genius der Zeit" というタイトルの詩集を刊行していた。みすぼらしい精神の持主である Hennings は、ゲーテによれば少なくとも Musen を指導するよりも、この Spukgesellschaft の中にまぎれ込んだ方がよいと言うのである。(Lange). この詩集は心の狭いキリスト教の狂信者の手になるものなので、Musenführer ではなくて Hexenführer というタイトルにすべきであろう。(Trendelenburg). sich in der Menge verlieren. 群集の中にまぎれ込む。

4313－14. diese —— 2行上の Hexenheer. wüßte —— 接続法第2式。婉曲な表現。zu tun wissen. anführen には leiten の他に zum besten haben, betrügen という二重の意味がある。(Arens).

4315. Ci-devant —— frz. [sid(ə)vã], vorher, vormals. Genius der Zeit —— (以前の) 時代精神。dänisch-holstein の政治家 August von Hennings は、雑誌 Genius der Zeit (1794－1800) を刊行したが、1801年からは Genius des 19. Jahrhunderts に名前を改めて1802年まで続刊した。従って „Ci-devant" (vormals) と言われる。これによって一方では Walpurgisnachtstraum

の日付の決定が、他の個所の „heute" を指摘することで（V. 4223, −70, −75, 4350）可能になる。他方では雑誌の内容に対して辛辣な切先が向けられることになる。即ち、親革命、親君主制との間を上手に立ち回っているこの雑誌に、ここで市民階級になる前の貴族に対する „Ci-devant"（旧貴族）というフランス語の表現が贈られるのである。(Gaier). Mit rechten Leuten wird man was —— Wenn man mit rechten Leuten umgeht, od. Freundschaft schließt, od. zusammen ist, so wird man etwas. etwas = Wertvolles. (Fischer).

4316. Komm —— du に対する命令形で、さあ、さっさと、ぐずぐずせずに、という催促の意。fasse —— du に対する命令法。Zipfel fassen —— am rockzipfel, um den träger festzuhalten. (Grimm).

4317−18. Parnaß —— 中部ギリシャの峰の多い山塊。文芸の神アポロとミューズの住む所と見なされていた。(Königs). =Auf dem deutschen literalischen Markt (Parnaß) ist efenso wie auf dem Blocken, Platz für alle und alles. (Lange). —— Platz für talentlose Dichter. (Reclam). gar einen breiten Gipfel —— einen gar breiten Gipfel.

4319. Neugieriger Reisender —— この 4 行は再び Nicolai を暗示している。(vgl. V. 4267). 彼は生涯を通じて秘密のカトリック主義とイエズス会精神と対決した。こうした反動的な勢力やイエズス会の陰謀を攻撃したその熱心さによって、彼は „Jesuitenriecher" という綽名をつけられた。(Erler). この Verse を話しているのは誰なのか明らかではない。二人の語り手がそれぞれ近くを通り過ぎる旅行者（Nicolai）の印象について、あれこれ言っていると推測するのが一番よい。(Heffner). Sagt —— Ihr に対する命令法。steif —— starr, unbiegsam, ungelenkt. (Fischer).

4321. Er schnopert, was —— Er schnopert (alles), was. schnopern —— (seit Beg. des 18. Jhdts.) unter wiederholtem Einziehen des Atems spuren od. wittern. 嗅ぎ回る。(Fischer).

4322. spüren —— eine Spur suchen. (Fischer). ここの引用符は、語りとしての Vers の役割の特色を見分けるしるしとして、Musenalmanach の Xenien にいくらでも見出されるものである。(Schöne). イエズス会はその攻撃性のために、カトリック教会自体から、また教会以外の側からも、1773年から1814年まで禁止されていた。しかし地下組織では活動を続けていた（プロイセンとロシヤだけは禁止例を意に介さなかった)。従ってイエズス会

士を嗅ぎ回ることは、多くの知識人のお気に入りのスポーツだった。Nocolai はこの点でも頭角を現わしていたので、この4行は彼に捧げられたものと理解されている。(Gaier).

4323. Kranich —— Zürich の説教者、作家 Johann Kaspar Lavater (1741−1801) のこと。以前はゲーテの親しい友人だったが、その感傷的な宗教性を、ゲーテは次第に確信を以て拒否するに到った。Lavater についてゲーテは Eckermann にこう語っている (am 17. Febr. 1829)：„Die ganze strenge Wahrheit war nicht seine Sache, er belog sich und andere. Es kam zwischen mir und ihm deshalb zum völligen Bruch ... Sein Gang war wie der eines Kranichs, weswegen er auf dem Blocksberg als Kranich vorkommt." (Lange).

4323−25. In dem klaren ... —— In dem klaren (Wasser) mag ich gern fischen. im Trüben fischen —— 格言になった慣用句で、混乱した、不透明な、面倒な状況を自分の利益のために利用すること。(Grimm). つまりどさくさに紛れてうまい汁を吸うこと。unredliche Dinge tun, sich in fragwürdige Gechäfte einlassen. (Goethe Wb.). im älteren nhd. „im trüben wasser fischen." (Grimm). 英語の慣用句 „fish in troubled water" も同じ意味。この2行の意は、俺は常識的なことをやるのは好きだが、いかがわしいこともな。im Trüben (mag ich) fischen.

4325f. fromm —— Lavater に対する悪口で、scheinheilig の意。(Goethe Wb.). この2行の意は、それでご覧の通り、この「敬虔な」紳士が悪魔たちの中にいるわけさ。この節の英訳は：„I like to fish where water's clear,／but also where it's troubled.／and so this pious clergyman／is seen among the devils." (Atkins). den frommen Herrn = Kranich.

4327. Weltkind —— ゲーテ自身。1774年ライン旅行のとき、神学上の狂信者 Lavater と教育上の狂信者 Basedow の間に坐ったときの詩 „Diné zu Koblenz" の中で、„Prophete rechts, Prophete links,／Das Weltkind in der Mitten." と歌っている。(Schöne). Lavater と Basedow については vgl. Dichtung und Wahrheit 14. Buch. (Trunz). die Frommen —— 宗教的な教化運動の特定のグループは、„die Frommen" (信心ぶる人) と呼ばれた。彼らは礼拝の集会で私的に出会った。ゲーテは彼らが進んでいかがわしいことも、神の意志の伝達手段 (Vehikel) と解釈して、知らぬ間に悪の道具にさえなってしまう、と言って彼らを非難している。(Gaier). glaubet

mir —— ihr に対する命令法。私の言うことを信じなさい。

4328. Vehikel —— [ve'hi : kəl] Fahrzeug, Hilfsmittel, günstige Gelegenheit. (Schöne).

4329. Sie —— 2行上の die Frommen. hier —— 前の Blocksberg にかかる。

4330. Konventikel —— (lat. conventiculum = Zusammenkunft), hier etwa „Winkelverein." (Königs). heimliche religiöse Zusammenkunft zur privaten Erbauung. (Lange). ゲーテは偽善者 (die Frömmler) や教会が、よくない手段によっても、自分たちの目標を達成しさえすればよいというやり方には、嫌悪感を表明している。従ってゲーテは秘密の集会 (Konventikel) をまるごと、Blocksberg の山上の悪魔のパーティーに登場させるのである。(Endres).

4331. Tänzer —— Pl. (Trendelenburg). ここは明らかに二人の話である。4333f. の答えは、引用符をつけて考えるべきだろう。vgl. 4322. (Schöne). ein neues Chor —— eine neue Schar. これから登場する哲学者たちのこと。(Schröer). Chor については vgl. V. 2575. (Erler).

4332. ferne Trommeln —— 哲学者たちはみな自分たちの学説を同時に話すので、遠くからは騒いでいるように聞こえる。彼らは互いに憎み合っている。vgl. 4339. (Trunz).

4333. Nur ungestört! —— 過去分詞による命令法。= Laßt euch nicht stören! 休むな、どんどんやれ！ You needn't stop! (Atkins). 従って Tänzer は安心して踊り続ける。(Arens). es —— 前行の ferne Trommeln.

4334. Die unisonen Dommeln —— サギ科の Rohrdommel (さんかのごい) の鳴き声。夜に音もなく飛んで、ごく稀に、特に抱卵時に、鈍いかすれたような声を出す。(Lange). さんかのごいは、くちばしの大きな鳥で、その鳴き声は遠くまで響く。(Trunz). unison —— nl. u. it. eintönig. (Fischer). 単調に鳴く Sumpfvögel のように哲学者たちがやってくる (4343－62)。彼らはみな悪魔の存在について思索しているけれども、それぞれ一つの立場に束縛されていて、そのときそのときの語り手の名前が明らかになる。(Schöne).

4335－42. この2節は哲学者のグループを予告するために、1828年にゲーテによってあとから Ausgabe letzter Hand に挿入された。(Reclam).

4335－38. Tanzmeister —— この4行と次の4行は、軽蔑的な、もはや全く情のない口のきき方によって、他のテクストから際立っている。Tanzmeister

は彼らの成功する見込みのない試みを笑いものにする。(Arens). 哲学者たちの絶え間のない喧嘩と、互いに憎悪に満ちた論争に対するゲーテの辛辣な嘲笑がこれから始まる。Tanzmeister は哲学の諸体系を、踊り手たちの滑稽な動きに喩える。(Endres).

4335. Wie ... doch ...! —— 感嘆文。lupfen, lüpfen —— (seit dem Mhd.), in die Höhe heben. (Fischer). ein wenig heben. (Schröer).

4336. sich herausziehen —— mit seiner Aufgabe fertig werden. 自分の課題をやりとげる。精一杯やる。(Arens). wie er kann —— 出来る限り。=Wie jeder sich herauszieht, wie er kann! 良くも悪くも、何と精一杯努めていることか!

4337－38. 哲学者たちはみずからの学問の体系に捕われて、ダンサーらしい、つまり率直で軽やかな美しい表現の身振りをする能力は全くない。der Krumme —— 不自然な者。der Plumpe —— 思考に於て鈍重な者。(Arens). der Krummbeinige (足の曲った者) はバランス良く歩くのが辛いので、歩くよりも跳ぶ。der Schwerfällige (鈍重な者) もやはり跳ぶことが出来ないので、蛙のようにはねる。(Trendelenburg). hupfen, hüpfen —— kurz und stoßweise springen. (Fischer). fragt —— 主語はそれぞれ前行の Der Krumme と der Plumpe. es は前行のこと。

4339. Fideler —— オーケストラの一人 Fiedler が Tanzmeister に答える。(Petsch). Adelung Wb. 1808 では、Fidel は Fiedel を見よとあって、両方の綴り方が存在することを暗示している。従って恐らく Bd. 2, S.43, Z. 6 と同じく Fiedler であろう。ゲーテの場合この Fiedel という語は何回か出ている。Faust 1017 ; Bd. 8, S. 412, Z. 19. fiedeln は Faust 945, Fiedellogen は Faust 956 ; Briefe 2, S. 444, Z. 36に出ている。形容詞の fidel はここではありそうにない。ゲーテの場合 fidel は „Urfaust" S. 381, Z. 29に一度だけ出ているにすぎない。(Trunz). Weimar 版も Loeper に倣って Fiedler としているが、Düntzer の反対意見があることも記している。

Fiedler は Heuschrecke の雄で、大腿部を使って羽の縁で音を出す。Tänzer は若い魔女の周囲に集まっているような蚊。Tanzmeister は Heuschrecke Saltatoria (直翅目、バッタ科)。(Buchwald). Tänzer, Tanzmeister, Fiedler に対するこのような主張は、単なる推測に基づいたものである。(Arens).

Fiedel —— mlat. vitula. 中世ルネッサンスの極めて重要な弦楽器。9

世紀以来存在したものでGeigeの前身。(Brockhaus). —— Geige, ahd. fidula, mhd. videla, videl. (Heyne). Das —— 行末のdas Lumpenpack. sich —— einander. 次行のsichも同じ。schwer —— sehr. (Arens). Lumpenpack —— Haufen von Lumpen oder armseligen Dingen; übertragen auf eine Vereinigung bettelhafter Menschen. (Heyne). 哲学者階級に対する極めて軽蔑的な表現。(Arens).

4340. gäbe —— 接続法第2式。現在の仮定。主語は前行のdas Lumpenpack. einem den rest geben —— ihm den garaus machen, ihn völlig zu grunde richten. 人を殺す、息の根を止める。(Grimm). sich[3] das Restchen geben —— 互いに絶滅し合う。(青木). Restchen —— die launige Verkleinerung. (Düntzer). Sie (das Lumpenpack) bekämpfen sicn als Vertreter entgegengesetzter Lehrmeinungen sonst bis aufs Blut (gäb' sich gern das Restchen). (Trendelenburg). sichの次にsonstを補う。いつもなら死ぬまで争うところだが。(越塚).

4341. Es —— 形式上の主語。真の主語はder Dudelsack. vgl. 4255f. Dudelsackがここで関与しているのは理由がないわけではない。ゲーテがよく知っていたM.Herrの絵が示しているのは、サタンではなく風笛吹きなのである。その音楽に合せて魔女と悪魔のペアが、渦をなして頂上の回りを踊っている。この行はこの絵にぴったりである。(Arens). sieは2行上のdas Lumpenpack.

4342. Orpheus Leier —— Benjamin Hederichによれば、「Orpheusは音楽に於ても人間ばかりでなく、野獣や木や岩さえも引きつけるほどの名手だった... 彼はこうしたことすべてを、アポロから受取ったLeyer, 即ち、Citharで行なったのである。」Orpheusはホメロス以後のギリシャ伝説の歌手で、その演奏は互いに敵意を抱くあらゆる動物たちを鎮めるほどだった。(Lange). Bestjen —— Restchenとの押韻のため、3音節のBestienを2音節にしたもの。(Heffner). 行末にeinteを補う。

4343. Dogmatiker —— 人間の認識の限界について、まだ全く知らないカント以前の哲学者たち。(Trendelenburg). 以下の哲学者たちはすべてそれぞれの学派の立場から、悪魔は実在するか、という問題を検討する。Dogmatikerは悪魔は存在するので、実在性を持っているに違いないと誤まった推論を述べる。(Witkowski). 悪魔という与えられた概念から、悪魔の存在を推論するカント以前の哲学者たちのやり方は、大抵神の存在論

的証明のパロディーであるとされている。ゲーテはシラー宛書簡（19. 11. 1796）でこう書いている：„Ich hoffe daß man aus unsern Xenien ein neues Argument für die wirkliche und unwiderlegliche Existenz des Teufels nehmen werde."（Schöne）.

ゲーテは哲学者ではなかった。同時代の哲学との密接な関係もなかった。晩年に彼は Eckermann にこう言っている。「哲学からは私はいつも自由に身を保ってきた。健全な人間悟性の立場が私の立場でもあった...」あるときゲーテは自分のことを実際的な懐疑論者と呼んだ（an Schiller 5. 5. 98）. 彼は抽象的な思弁や当時の哲学的な独断論を退けている。「なぜならゲーテは理性の自律に対する彼の時代の信仰を共にすることはないからである —— 彼は理性の人間的な制約を見ているのである。」H.-G.Gadamer：Goethe und Philosophie, Leipzig. 1947. 32f.）.（Arens）. sich irremachen lassen —— 惑わされる。この machen の代りに schreien だと大きな声に惑わされる。Trommel のような次行の Kritik や Zweifel の騒しさ、及び 2 行下の sein との押韻のために machen の代りに schrei(e)n を用いたと思われる。

4344. nicht durch Kritik のあとに eines Kant を補う。noch Zweifel のあとに eines Hume を補う。（Trendelenburg）. つまりカントのような批判論とヒュームのような懐疑論のこと。noch（durch）Zweifel.

4345. doch —— やはり、何と言っても。間違いなく。

4346. gäb's —— gäbe es. 接続法第 2 式。反語的用法。denn —— そもそも、一体。sonst —— そうでなければ。auch —— 強調。英訳では：„The devil must be something, though, ／ Or how could devils be else?"（Bruford）. Blocksberg が示しているように悪魔は存在する。従って悪魔は人間に対して、現実の存在を持たねばならない。独断的な哲学と空疎な理論に対する二重の当てこすり。（Trendelenburg）.

4347. Idealist ——（von griech. idea „Vorstellung"）. Fichte 流の哲学者たち。彼らにとっては、外界はすべて内面の意識の出来事にすぎない。この外界が混乱しているように見えるのなら、当然自分自身が混乱していると思わざるを得ない。（Reclam）. Idealist は観念の優位から出発して、現実の世界を自我の発露と見なす（特に Fichte の絶対的観念論）。この外界は馬鹿げているように見えるので、首尾一貫した Idealist は、自分自身がこうした世界の「創造者」、つまり馬鹿者であると推測せざるを得ない、とゲーテは皮肉に論証しているのである。（Erler）. herrisch —— seit dem mhd. =

befehlshaberisch, gebieterisch. (Fischer). einem Herrn angemessen, gehörig, doch nur in tadelnden Sinne, gebieterisch, mit beleidigendem Stolz befehlend. (Heyse).

4349. wenn ich das alles bin —— 外界の諸現象一切の現実性を、認識する主体の意識の中へ移すという試みを意味する。(Fichte Ges. Ausgabe 1965, 285：„Das Ich setzt das Nicht-Ich, als beschränkt durch das Ich.") 自我は自我によって限定されるものとして、非我（外界）を措定する。(Schöne). 自我の表象としての外界。(Petsch).

4351. Realist —— (von lat. res „Ding", realis „dinglich")、事物、つまり具体的な現実から出発して、感覚的には知覚し得ないことを、存在しないものとして、幾重にも否定する哲学上の学説の信奉者。Empirist. ここで Realist は Walpurgis の出来事を目の当りにして、現実そのものさえも信じられなくなる。(Reclam). Das Wesen —— das ganze Treiben auf dem Blocksberg. (Schröer).

4352. baß —— recht, sehr, ungemein. 専ら verdrießen, betrüben, (er)freuen と結びついて用いられる。(Goethe Wb.). 古語の副詞、形容詞。(besser, best の古い原級)。gut, wohl, sehr の意。通常 besser, mehr の代りに用いられた。(Heyse). 元来形容詞としてのみ用いられた besser の比較級語尾の無くなった副詞形、(よりよく)。かなり古い nhd.では比較級の意味でまだよく用いられた。近代語の古風な話し方でも、比較級として用いられた（Wieland, Hölty, Droste)。原級の場合だけ tüchtig, derb の意。(Heyne).

4355. Supernaturalist —— 超自然主義者。自分の哲学が自然を超える現実性を受け入れるときに、至高の喜びを覚える。この現実性というのは、人間精神のある特別の機能によって、或いは我々の理解を超える認識の源泉（啓示）によって、認識し得るはずのものである。悪魔が存在するなら、善き霊も存在しなければならないという推測は、論理的な弱点にも拘らず、超自然主義者にはすばらしい慰めに思われる。もしかするとゲーテはここで、親交のあった Friedrich Jacobi（1745－1819）のことを言ったのかも知れない。(Endres).

4356. sich mit jm. freuen —— 一緒にいると楽しい。mit diesen (Teufeln). diesen は2行下の schließen と韻を踏む。(Heffner).

4357f. von et. auf et.[4] schließen. 或事から或事を推論する。

4359. Skeptiker —— 一切を疑う者。愚かにもここで認識を手に入れることが

出来ると思い込んで、認識の宝を探す哲学者たちをからかう。Skeptiker は悪魔を懐疑派そのもの、つまり永遠に否定する者、従って自らの同盟者と見なす。(Reclam). Sie —— 他の哲学者たち、特に Supernaturalist. (Endres). Idealist と Supernaturalist. (Trunz). Flämmchen —— 財宝のありかを示す焔。(Trendelenburg).

4360. Schatz —— sichere, absolute Erkenntnis. (Trunz). =glauben sich[4] dem Schatze nah zu sein.

4361. der Zweifel nur —— nur der Zweifel. Teufel と Zweifel の Reim は、„Faust" では 4 回ある。V.368－9, 4272－4, 4344－6, 4900－01. (Arens).

4362. Da —— それで (理由)。

4363f. 今度は哲学者たちのわめき声によって、再び調子を狂わされた "Frosch im Laub" と „Grill' im Gras" は、素人と罵られる。他のグループへの話しかけは、賞賛かも知れないし、警告かも知れない。(Arens). (Ihr seid) verfluchte Dilettanten!

4366. doch —— やはり、一応。

4367. Die Gewandten —— gewandt=geschickt, sich den Umständen gemäß zu wenden od. zu bewegen. (Fischer). 世渡り上手。さっさと自分の信念を変えて、何の不安もなく、順応する術を心得ている如才のない連中は、時代を諷刺すると見なされる人物たちのグループの先頭に立つ。これらの人物には1789年のフランス革命が惹き起した社会的変化が反映されている。(Erler). Sanssouci —— 節操も思慮もないが、まさにそれ故に常に順応しながら、どんな状況の下でも、たとえ頭で歩かねばならないときでさえも、満々たる自身を持っている „die Gewandten" を、ゲーテは Sanssouci—— ohne Sorge と呼ぶのである。(Schröer). ここから登場する最後のグループは、政治的諷刺に捧げられている。(Witkowski).

4368. lustige Geschöpfe —— die Gewandten. (越塚).

4369. geht's —— geht es. es は非人称。足ではもう歩けない。

4370. 英訳では：„We walk upon the head." (Greenberg). „We are walking on our heads." (Atkins). 頭で歩く。

4371. Die Unbehülflichen —— Unbehilflichen の版もある。他に unbehelflich の形もあるが、最近では unbehilflich が好まれる。うまく切り抜けることの出来ない人々。(Grimm). Grimm の辞書のこの個所に於けるゲーテの例は、語幹の綴（母音）が ü ばかりなので、ゲーテはこれを好んだと思われる。

宮廷や安全な国家の地位に寄生して、富と名声を手に入れたけれども、フランス革命後はその実入りのよい閑職を失った人々。(Endres). Sonst —— 以前は。Bissen —— Happen. ここは比喩的な意味。Bissen erschranzen —— Anteil an den Gütern des Lebens sich ergattern. 財産の分け前をまんまとせしめる。(Goethe Wb.). erschranzen —— durch Höflingsgebaren, devotes Schmeicheln etw erlangen (im Reim auf Tanzen). (Goethe Wb.).

4372. Gott befohlen! —— Gott は 3 格。別れの挨拶。ここでは比喩的な意味で Alles verloren. (Reclam).

4373. durchtanzen —— tr. durch Tanzen (Schuhe) abnutzen. 踊って靴をはきつぶす。(Goethe Wb.).

4374. laufen —— gehen.

4375. Irrlichter —— フランスのブルジョワジーに与していた Parvenüs が暗示されている。vgl. V. 3855. (Erler). 革命の時代はいつでもそうであるが、沼の中から這い上がってきて、突然輝やきながら存在したものの、鬼火以外の何者でもない人々が生まれた。(Truntz). vgl. V. 4084ff. (Arens).

4376. erst —— zuerst. entstanden (sind).

4377. gleich —— sogleich. Reihen —— Reigen. vgl. V. 4236.

4378. Die glänzenden Galanten —— typisierend für sich alsbald wieder in höf Galanterie gefallende Emporkömmlinge der Frz Revolution. (Goethe Wb.).

4379. Sternschnuppe —— 流星。ancien regime の政治的な、或いは社会的な空に輝いていた個々の人物は、今や失脚して自分の力ではもはや何も出来ず、再び何らかの地位を得るように、外国で頼まざるを得ないほど落ちぶれた存在になっている。(Arens). schoß...her —— her|schießen＝gewaltsam sich herbewegen. (Grimm). in stürmischer Eile herbeikommen. (Fischer). この 2 行の英訳は："In a glow of stars and fire／I shot down from the sky." (Atkins).

4381. Liege nun im grase —— (Ich) liege... 古い民間信仰は道路や草原上のゼリー状の塊 (Meteorgallerte) を、落ちた流れ星と見なしていた。(Witkowski). 藻類のゼリー状の塊は —— ゲーテはそれを知っていて研究していたのだが —— 落ちた流れ星と見なされていたということを、ゲーテは考えていたのかも知れない。vgl. Günther Schmid 1951, 277ff. (Schöne).

4382. jm. auf die Beine helfen —— 或人を助け起す。

4383. Die Massiven —— 一切を踏みつぶす粗野な暴徒。(Schöne). 自分たちの勢力を意識して、自分より前に登場した四つの政治的タイプを片づけようとする革命的大衆。(Recham). 革命に対する危惧からゲーテは、大衆(die Masse) をも政治的な霊の世界に導入する。霊の足下では何ともない草が、彼らの足下では踏みにじられる。場所が見つからない彼らは、Mummenschanz の Holzhauer のように自分たちのために場所を作る。vgl. V. 5199. (Trendelenburg). massiv —— dicht, voll, gediegen, aus franz massif; übergehend in die bedeutung derb, plump, und auf personen gewendet: grob, ungeschliffen. (Grimm). Die Massiven の英訳は、The Heavy Brigade, The Massive, The Roughnecks など。

Platz! —— Platz gemacht! wie franz. place! 席をあけろ、どけ! (Grimm). Rlatz und Platz! —— und はリズムのため、次の und も同じ。Platz! Platz! が普通。ringsherum! —— (Platz) ringsherum! ぐるりとどいた!

4384. So —— in dieser Weise. nieder|gehen —— sich zu boden neigen. (Grimm).

4385. auch —— wie wir. (Reclam).

4386. Sie —— 前行の Geister. 訳す必要はない。plump —— von großer Masse und roher Form, unförmlich dick und schwerfällig (ein plumper Körper, plumpe Hände, Füße, Stiefel u. dgl.). (Heyse).

4387. Tretet...auf —— ihr(die Massiven) に対する命令法。auf|treten=den Fuß auf den Boden setzen. 歩む、歩を運ぶ。(Heyse). mastig —— Mast habend, feist, fett, plump, schwer. (Heyse). dickleibig und schwerfällig. (Fischer).

4388. Elefantenkälber —— junge Elefanten. (Reclam).

4389. der Plumpste —— 最高級の名詞的用法。世話役の Puck が彼らをたしなめる。ここでは一番不格好な Puck よりも不格好である権利は誰にもない。(Arens).

4390. Sei Puck —— Soll Puck sein. der Derbe —— 形容詞の名詞的用法。ゲーテは die Massiven によって、革命的大衆ばかりでなく、今日我々が衆愚と呼ぶ人々をも表わすつもりだった、ということが Puck の詩行から推測される。(Endres).

4391f. Ariel —— vgl. V. 4239. Gab die liebende Natur, Gab... —— Wenn euch die liebende Natur oder der Geist Flügel gab. 英訳では: „If you have wings

from kindly Nature, ／ Or from your own spirit." (Greenberg).

4393. Folget —— ihr に対する命令法。(Dann) folget.

4394. Auf zum Rosenhügel! —— Hinauf zum Rosenhügel! Ariel は Wieland 作 Oberon の結末の歌を暗示する。そこでは主人公 Hüon が誓約を果すために、生命の危険を犯して Oberon から贈られた角笛を吹く。それを聞くと彼の敵の町の人々全部がダンス熱に捕えられる...この踊りの雑踏の中から、Hüon とその妻、忠実な従者たちが、白鳥に引かれた Oberon の飛ぶ車に迎えられて、バラの茂みに囲まれた Oberon の宮殿に送られる。Ariel はこれを暗示している。(Wieland, Oberon XII, Strofe 61－69). 肉体の翼への Faust の願望を言わば訂正しながら、„des Geistes Flügel" (V.1090) のみが、「古いロマン的な国への騎行」を可能にするのである。(Gaier).

4391－94. Rosenhügel は美の理想の国である。シラーの „Das Ideal und das Leben" では次のように歌われている：„Aber sinkt des Mutes kühner Flügel, ／Bei der Schranken peinlichem Gefühl,／Dann erblicket von der Schönheit Hügel／Freudig das erflogne Ziel." しかしレビューを通過したすべての霊たちの中の誰がそこに到達できるだろうか？ かなりの解説者は Wieland の Oberon では、Oberon の城が建っているのは Rosenhügel だと主張している。それは意味深い結末だろうが、その城が建っているのは Rosenhügel ではない。(Arens). 案内者のアーリエル (4239ff.) は、妖精たちに Blocksberg からまた彼らの Rosenhügel に飛んで行くように要求する。Wieland は Oberon (XII, 69. Strophe) の中で、生い茂った野バラの茂みの間の Lustland の中に、彼らの宮殿を置いている。(Düntzer).

4395. Pianissimo —— ital. ganz leise. (Königs).

4398. zerstieben —— (seit dem Mhd.) intr. staubgleich auseinanderfliegen. (Fischer). 現在完了。

4395－98. オーケストラは叙情的なピアニシモで終る。„Fliegenschnauz' und Mückennas' " (4251, 4365) の代りに、„Wolkenzug und Nebelflor" が現われ、„Frosch im Lauf und Grill' im Gras" (4253, 4363) の代りに、„Luft im Laub und Wind im Rohr" が現われる —— このように美しい光景を通して、まだ醜く歪んだ顔が見える。それから美醜二つながら消滅して Nichts だけが残る。(Arens). 爽やかな早朝の風が夜の霊たちを追い払う。これによって Intermezzo ばかりでなく、Walpurgisnacht 全体も幕を閉じる。しかしながら Faust の Paralipomena によれば、Intermezzo のあとに一部はす

でに完成されていた、もう一つの場が続くはずであった。その場ではTeufel や Hexenが、Brocken の頂上でSatan に忠誠を誓う。それから真夜中に霊たちが姿を消し、全体は火山のような、„mit unordentlichem Auseinanderströmen, -Brechen und -Stürmen" で終る。(Loeper).

TRÜBER TAG・FELD
曇れる日・野原
(S. 137－138)

すでに „Urfaust" の中に含まれているこの場は、その内容とドラマの機能を変えることはなかった。„Urfaust" ではこの場は „Nacht" のあとになっている。Faust が Gretchen と離れていた「味気ない気晴らし (S.137, Z.12)」によって満たされていた時間は、まだ形作られてはいなかったし、二人の別離も理由づけられてはいなかった。Gretchen の運命の物語を提供する代りに、ゲーテは Gretchen の運命に対する Faust の驚愕から、彼女の運命を明らかにするのを選んだ。Gretchen の運命を Faust がどのようにして知ったかということは、ゲーテにとっては恐らく最初からそれほど表現する価値があるとは思われなかったのだろう。この場は Gretchen が母親になり、子供を抱いて町から逃げ、長い間あちこちとさ迷った揚句に子供を殺したこと、捕われて投獄されたことが前提になっている。Frankfurt の Susanna Brandt の裁判 (1771－2) 以来、ゲーテや同時代の幾人かの詩人たちの心を動かしたこの子殺しのモティーフは、この場に於て行為そのものは全く取り上げられないほど、ゲーテには自明のことだった。恋人の運命による Faust の衝撃を、Mephisto の冷淡な即物性と対照的に創造することが、もともとゲーテの心を唆ったのかも知れない。しかし Faust が自分の「気晴らし」と、Gretchen の現在の状況に対する唯一責任のある者と見なしている Mephisto に対して、Faust の衝撃が度外れの罵詈雑言に一変するのは特色のあることである。他方 Faust は自責の言葉を —— 何と言ってもここで一番最初に人々が期待するに違いない言葉を、一言も発してはいない。筋の進展は救出の試みの決定にある。(Arens).

この Trüber Tag, Feld の場は、„Faust" に於ける唯一の散文の場である。それにも拘らずここでも少なくとも Faust の話は、強くリズムがつけられ、アクセントが置かれているように思われる。その結果「リズムカルな散文」として

も語ることが出来るだろう。この場の冒頭で直ちにゲーテは、Faustの絶望を三つのAmphibrachen（∨－∨）で表現している：

Im Elend! Verzweifelnd! Erbärmlich〔...〕!

Faustの話は興奮していて、しばしば言葉につまる。このことは読者にとっては、多数の感嘆符（これはゲーテの場合実際に休止符としても機能している）で明らかになる。それからまたFaustの言葉はずけずけと口から流れ出る。これにはDaktylenの使用が決定的に貢献している。(etwa Z.10, 13f., S.138, Z.1, 3)：

Gefangen! Im unwiederbringlichen Elend!〔...〕verbirgst mir ihren wachsenden Jammer und lässest sie hülflos verderben!〔...〕vor den Augen des ewig Verzeihenden!〔...〕über das Schicksal von Tausenden hin!

多数の疑問文によって特徴づけられた、Mephistoのシニカルで冷淡な、散文的な調子は、Faustのこうした感情的な調子を帯びた散文に対して、目に見えて際立っている。(vgl. Z. B. S.138, Z.4－9).

ゲーテがこの場を „Auerbachs Keller" と „Kerker" の場について実際にやったように、完全な第一部の出版のために、1808年に韻文にするつもりだったかどうかは分からない。もしかするとゲーテは韻文に書き換えようとして、満足な結果を得ることが出来なかったのかも知れない。―― 何れにせよこの場は、オペラのような „Walpurgisnacht" と、„Walpurgisnachtstraum" の浅薄な口喧嘩のあとでは、まさにその散文形式によって、恐ろしいほど激しい、強烈な効果を持つものである。(Ciupke).

以下のページ数と行数はHamburger Ausgabe, Bd. 3の „Faust" に従う。

Trüber Tag ―― もはや空想に明るく照らされた夜ではない。何の実りももたらさなかった、羽目を外した気晴らしのあとの、二日酔いの完璧な表現である。Feld ―― 平凡な平坦な大地。もはや山地ではないし、悪の山の高みへの飛翔でもない。通常の生活からの解放でもない。(Arens). 野原は聞く人がいないので、Faustは憤激に任せて大きな声でどなることが出来る。(Witkowski).

S.137, Z.3f. Elend ―― ein fremdes Land als Aufenthaltsort eines Verbannten; die Verbannung selbst. jetzt überhaupt der höchste Grad des Unglücks und Leidens. (Heyse). =(Sie ist) im Elend, verzweifelnd, erbärmlich ... nun gefangen! verirrt ―― umhergeirrt. (Königs).

5. zu —— unter. eingesperrt (ist) das .... Geschöpf —— für eine junge, reizvolle u. liebenswerte Person, insbes Frauengestalt. (Goethe Wb.). unselige —— unglückliche. (Lange).

6. Bis dahin! —— Bis dahin (ist es gekommen)! (Schröer). 二つ目の dahin は強調。(Arens). (Du) verräterischer, nichtswürdiger Geist.

4−6. Mephisto に対するこの批判は、浅はかな印象を与える。Mephisto が Gretchen の運命を隠していたことを裏切りだと言うほど、Faust は Mephisto を、この意地の悪い霊を、忠誠心のある下僕と見なしていたのだろうか？ Faust の批判攻撃は、Mephisto がずっと彼女の消息を知っていたという確信を前提としているので、Mephisto 自身彼女の消息を今やっと明かしたということが推測される。„Geist" という呼び掛けは全く普通ではない。この前には V.1730の „du böser Geist" があるだけである。V. 4030 の „du Geist des Widerspruchs" は、穏やかにからかう言い方である。(Arens).

7. das —— 上 4 行の Gretchen の運命。du —— Mephisto. 現在完了。Steh! —— du に対する命令法。2 行下の Steh も同じ。Mephisto が Faust より速く歩こうとするのでこう言う。(Heffner).

8. Wälze...herum —— du に対する命令法。herum|wälzen. ここでは tr. ingrimmend —— ingrimmig, voll heftigen Grimms. (Fischer). この Vers は S.138, Z.10：„Fletsche deine gefräßigen Zähne mir nicht so entgegen!" と同様、„Faust" の文体にも Mephisto のイメージにも相応しくない。(Arens).

9. trutze —— du に対する命令法。= trotzen. 北ドイツ人は trotzen を好み、南ドイツ人は trutzen を好む。(Grimm).

10f. Gefangen! —— (Sie ist) gefangen im unwiederbringlichen Elend! Bösen Geistern... —— (Sie ist) bösen Geistern und der richtenden gefühllosen Menschheit übergeben! Bösen Geistern —— 人間の心を暗くして、罪悪感を途方もなく高める悪霊。Domszene の悪霊と同じ。(Arens). Gewissensangst. Domszene と同じく Gretchen を絶望へと狩り立てる霊。(Königs). der richtenden gefühllosen —— der gefühllos richtenden. (Thomas). gefühllos —— 行為の心理的社会的動機を考慮しない裁判をいう。(Arens).

12. Und mich wiegst du indes in abgeschmackten Zerstreuungen —— Urfaust

では：„Und du wiegst mich indes in abgeschmackten Freuden ein." 英訳では：„And meanwhil you lull me with vulgar diversions." (Luke). „And meanwhile you distract me with insipid entertainments." (Greenberg). abgeschmackten Zerstreuungen を見せてくれるのは Walpurgisnacht であるが、„Urfaust" には勿論この場は欠けているので、当時ゲーテがこれで何を暗示しようとしたのかは不明。(Reclam). Urfaust のこの個所は Walpurgisnacht への指摘だろうか？その場合はこの場は極めて初期に計画されたことになる。或いはより一般的には、Wieland が報告していることであるが、伝えられなかった極めて興味深い官能の悦楽の場面に関係づけるべきだろうか？(Schöne). Walpurgisnacht が書かれたあとでは、Urfaust の „Freuden" より „Zerstreuungen" の方が適切である。就中 Abgeschmacktheit は Walpurgisnachtstraum の核心を突いている。(Arens). indes —— inzwischen, währenddessen. (Fischer).

13f. verbirgst mir —— Z. 7. の „mir verheimlicht" に溯って繰り返す。(Arens). Und lässest sie hülflos verderben —— 再び悪魔に対する無邪気な非難。Faust が誘惑した犠牲者を、Mephisto が自ら進んで救わねばならないかのように、つまり好ましいことをしなければならないかのように言う。(Arens).

15. Sie ist die erste nicht —— die Erste の版もある。erste のあとに Verlassene を補う。(青木). nicht die erste が普通。nicht の後置は強調。父と兄弟が兵士だった Susanna Margaretha Brandt は、Gasthaus zum Eichhorn で、女中として働いていて、1772年１月14日に嬰児殺しの母親として斬首された。その55番目の討論のテーゼの中で、Kindesmörderinnen に対する量刑と取組んでいたゲーテは、当時人口 36000人の Frankfurt が、この犯罪事件のために、非常な興奮状態に陥っているのを見た。彼の身近な周囲の人たちは、職業上この裁判に関っていた。彼が８月末に弁護士として故郷の町に居を定めたとき、25歳の Brandt は４週間このかた、ゲーテ家から200m ほどの古いカタリーナ門の塔の中に幽閉されていたのである。ゲーテの弁護士仲間であり、のちに義弟になる Dr. J. G. Schlosser は、参審裁判官として共に審理する Johann Jost Textor（ゲーテの母の弟）の照会 —— 処刑は一撃によって執行されるのか、という照会に対する死刑執行人の返事を、ゲーテに手渡していた。Klettenberg 嬢のホームドクターで、４年前に若いゲーテの病気を治したり、ゲーテに魔術と錬金術の手ほどきをしたりし

たDr. Metzに次いで、ゲーテ家のホームドクターDr. Burggraveが、被告人の医療上の世話をするために呼ばれた。被告は10月8日から12日までRömerで尋問を受けた。そして旅行中の金細工師の職人が、ワインに混ぜた薬を使って私を誘惑した、8月1日に生れた子供を、「恥辱と人々から非難されるために」殺すように、悪魔が私を唆した、と申し立てた。1756年から65年まで、ゲーテの家庭教師だったJoh. Heinrich Thymは、この不幸な女が犯行後すぐに町から逃亡したとき、兵器局の書記として指名手配書を作成していた。8月3日に彼女は逮捕され、1月11日に判決が告げられたが、それは死刑執行の3日前であった。死刑執行にはFrankfurtの駐屯部隊が動員され、町を通って刑場に行く行列は一時間続いた。そして処刑は中世の儀式に従って執り行われたのである。

「嬰児殺し」のテーマはこの時代の最もアクチュアルな問題の一つで、法律家ばかりでなく、当時の詩人たちによってもしばしば取り上げられた。法律家G. A. Bürgerはそのバラード „Des Pfarrers Tochter von Taubenhain" の中で、若いシラーはその詩 „Die Kindesmörderin" の中で同じモティーフを取り扱った。(Reclam). この „die erste nicht" はS. M. Brandtの裁判記録に文字通り記されている。Clavigo 1, 1にも引用されている。(Reclam).

Beutlerはこの問題を精細に論じて、ゲーテ家やゲーテ自身との関わりから、Faust執筆の動機について述べている。Ernst Beutler : Die Kindesmörderin. in „Eassays um Goethe", Leipzig 1941. Dieterich'sche Verlagsbuchhandlung.

16.－S.138, Z. 1. „Die erste nicht !" というテーマに対するこの怒りの噴出は、お前は人間ではないという悪魔に対する非難であって、我が身に起るすべてのことを、一度切りの、すべて個人的な運命として理解する人間と、神であれ、悪魔であれ、全体を展望する能力によって、永遠に繰り返しながら行われる規則的なこと —— 個人の価値や、個人の一つの生命の価値を止揚する規則的なこと —— しか見ない霊との永遠な対立を的確に表現している。(Arens).

15－23. FaustはMephistoに対して無力だと思うと、足で踏みつけることが出来るように、Mephistoが犬になればよいと望む。この望みはMephistoをまた犬に、しばしば変身したかなり以前のLieblingsbildungに変えて欲しいという、„unendlicher Geist" に対するいかめしくも格調の高い三重の呼

びかけになる。Faust は Mephisto を抹殺する罵詈雑言を求めて、Mephisto を Hund, Untier, Wurm と呼ぶ。(Arens).

16. Hund! ... —— (Du) Hund, abscheuliches Untier! Untier —— ein ungestaltes, häßliches, böses, wildes, gefährliches Thier. uneig. ein wilder, abscheulicher, lasterhafter Mensch. (Heyse). vom teufel und gespenstischen wesen. (Grimm). Wandle —— du に対する命令法。次行と21.の Wandle も同じ。ihn —— Mephisto. 2行下の er も同じ。du unendlicher Geist —— S.138, Z. 11と同じく地霊への呼び掛け。Faust は地霊が Mephisto を送ったものと推測している。(Trunz).

17f. wandle den Wurm wieder —— 三つの W は頭韻 (Alliteration) として効果的。Wurm —— gemeingerm. = sich ringelndes Lebewesen. Kriechtier; nach älterer Bed. = Schlange. bildl. vom Teufel. (Fischer). 悪魔の化身である Schlange. Faust が犬の姿をした悪魔と何度も付き合ったということは、ゲーテの „Faust" には出て来ない。(Endres).

18. wie er sich oft ... —— Mephisto は犬の姿をして (Vor dem Tor) 夜ではなく夕方頃に、しかも意地の悪い犬ではなく、おとなしい犬になって一度だけ登場する。(Königs). sich[3] gefallen —— mit Inf. u. zu, als Umschreib. von „gern". 好んで...する。(Fischer). herzutrotten, zu kollern, zu hängen の三つの zu 不定詞が補足語。trotten —— traben. 速足で歩く。(Fischer). nächtlicher Weile —— (2格)。in der Nacht. Mephisto は闇の一部である。V.1350. (Gaier). kollern —— (vom md. Koller od. Kuller = Kugel) sich fortwälzen, kugeln, rollen. 転がる。(Fischer).

19. Wandrer —— Faust だけでなく、たまたま通りかかった人も、Mephisto から Kobold のやり方で苦しめられる。(Reclam). = vor die Füße des harmlosen Wandrers zu kollern.

20. =sich auf die Schultern des niederstürzenden (Wandrers) zu hängen.

21. ihn, er, 次行の ihn —— Mephisto. seine Lieblingsbildung —— Schlange. vgl. 1 Buch Mose 3, 14: „Auf deinem Bauch sollst du gehen, und Erde essen dein Lebenslang." (Alt.) daß —— damit. 次行の trete までかかる。krieche, trete —— 接続法第1式。daß(damit) に応じたもの。den Verworfnen —— 一般的には den Ruchlosen. 正確には „den von Gott Gestürzten und Verurteilten" を意味する。vgl. V. 1304. (Arens).

23f. Die erste nicht! —— (Du sagst) die erste nicht! Jammer —— heftiger

Schemerz, Herzeleid. vgl. V. 4405f. (Fischer). von の前に Es ist を補う。Es は続く二つの daß 文を受ける。mehr —— より多くの者。次行の versank の主語。

25f. das erste —— das erste (Geschöpf). =die erste Kindesmörderin. (Schöne). 極度の悲惨、絶望から嬰児殺しへと狩り立てられた場句に、恐ろしい死刑の不安を味わい通した最初の女は、それによってあとに続くすべての不幸な女の罪を、本当に神の前で償ったのだと Faust は言うのである。従って Faust はここで奇妙なことに、キリストの死について教えられているように、苦悩が代理として救済を行うという考えを表明しているのである。しかしながら未婚の母による嬰児殺しは、もはや罰せられるべきではない、或いは、女の子は全くもうそういう状況に陥るべきではない、と言っているのかどうかは明らかではない。何れによこれは、わざと感情を強調した一般的な理性的判断であって、Gretchern に対する苦痛の直接的表現ではない。(Arens).

für et. genugtun. 或事の償いをする。genug tat は genugtat の版もある。aller übrigen —— aller übrigen (Kindesmörderinnen). 他のすべての（嬰児殺しの）女たちの。in seiner windenden Todesnot —— wenn es sich in seiner Todesnot wand. 死の苦しみの中で身もだえしていたとき。(Lange). seiner は 1 行上の das erste (Geschöpf) の所有代名詞。

S.138, Z. 1f. des ewig Verzeihenden —— Urfaust では des Ewigen. この変更は Urfaust の „ist gerichtet" を „ist gerettet" に変えたように、Gretchen の救済を疑いのないものにする意図から出ている。(Trendelenburg). 人間がみずからの苦悩によって罪から浄められたら、神の赦しは人間に与えられる。第一部と第二部の結末もこのことを示している。(Witkowski). Mir wühlt es Mark und Leben durch —— 典型的な Sturm und Drang の言葉。(Arens). Mir（私の）は Mark und Leben にかかる。Leben は Bein が普通。es は次行の das Elend. jm. Mark u. Leben durchwühlen —— jdn tief erschüttern, aufwühlen. (Goethe Wb.). dieser Einzigen —— dieser einzigen の版もある。=dieser einen. (Arens). Gretchen のこと。

2f. grinsen —— Mephisto がよくやるように、顔を歪めて冷笑すること。vgl. V. 664. (Schröer). hin|grinsen.

4f. Nun sind wir —— この wir は寛大に見下すような感じの wir である。(Arens). Witz —— hochdeutsches zu „wissen" gehörendes Wort=Wissen,

Einsicht, Klugheit, Scharfsinn, Verstand (bis tief ins 18. Jhdt. die gewöhnliche Bed. des Wortes). (Fischer). da wo —— (da) wo od. da, wo. Grenze にかかる。euch Menschen[3] —— 今度はまた距離を置いた呼びかけ。(Arens). der Sinn eurer Menschen. Sinn —— Erkenntnisvermögen, Verstand. (Heyse). über|schnappen —— schnappend über etwas fahren od. springen; Verstandeszerrüttung zeigen, verrückt werden. (Heyse). als euphemist. ausdruck für verrückt werden. (Grimm). Urfaust ではここは wo euch Herrn das Köpfchen überschnappt. 意味は同じ。(Arens).

6. mit jm. Gemeinschaft machen —— 提携する、結託する。uns —— この複数形の uns は、例えば Paracelsus の魔神論による霊の階級制や種類を、或いは Swedenborg の考えによる霊の社会を示すものである。(Gaier).

7f. sie —— 前行の Gemeinschaft. Willst fliegen —— (Du) willst fliegen. und —— und doch. bist (du). vor et.[3] (gegen et.) sicher sein. 短時間の個人的な視点から、時を超越した悪魔の非個人的な視点への飛翔が Faust には出来ないので、この点で Faust の „In deinen Rang gehör' ich nur" (1745) は、辻つまが合わないということが明らかになる。(Arens). 飛びたい者は、めまいに襲われても平気でいるべきだ。即ち、悪魔と結託する者は、良心の非難にも平気でいるべきだ、ということ。(Heffner).

Mephisto は „Wald und Höhle" の中で、Faust の取り乱した様子を次のように嘲笑している：„Wie's wieder siedet, wieder glüht!" (3366), ここでもそれと同じ極端な調子で言う：„Willst fliegen und bist vorm Schwindel nicht sicher?" Willst fliegen の類例としては1074ff.：„O daß kein Flügel mich vom Boden hebt, /Ihr nach und immer nach zu streben!" (Arens). Drangen wir uns dir auf —— sich jm. auf|dringen (=auf|drängen). 或人にしつこく迫る、つきまとう。この wir と次の uns は Teufel をすべて包括する。(Arens). du dich uns? —— (drangst) du dich uns (auf)?

Drangen wir uns dir auf, oder du dich uns? —— この発言は状況を十分に利用した、いかにも Mephisto らしい巧みな歪曲である。Faust は地霊に語りかけた (137, 16f.)。Mephisto は地霊と自分を wir と言う。しかし460ff. の場で、Faust が呼び出したのは地霊だけである。地霊に関しては、Faust が地霊にしつこく迫ったと言えるだろう。むく犬になってやってきた Mephisto の場合は、全く事情が異なる。Mephisto の方が迫ったのである。Mephisto は地霊と自分を一緒にすることによって、真実を歪めてい

るのである。(Trunz).

Prolog im Himmel のあと言うまでもなく Faust の跡をつけた Mephisto は、むく犬になって Faust に近づき、先ず Faust に呪文をかけてもらう。そして普段でも Faust から探し求められていて、その逆はあり得ないかのような外見を、喚起しようとしている。(Alt). Faust は魔術に専念して霊の世界にしつこく迫った。悪魔も何としてでも引き止めようとした。(Trendelenburg). Mephisto のこの決定的な問に、Faust は „Ja" で答えねばならないだろう。なぜなら Faust は地霊を呼び出したり、霊たちに呼びかけたりしたのだから (1118ff.). それからむく犬が Faust に近づいてきて、呪文のあとで始めて悪魔の姿を現わした。最初 Faust は契約 (1414f.) のことを考えていた。また Faust は自分の懇願によって、地霊が Mephisto を送ってきたと確信している。(Arens).

10f. Fletsche...entgegen ! —— du に対する命令法。entgegen|fletschen. むき出した歯は情欲の表現である。(Schröer). ekelt's —— ekelt es. es は非人称。Großer herrlicher Geist —— 地霊。(Lange). Mephisto の問に対して Faust は沈黙せざるを得ない。S.137, Z.16f. と同じ態度が繰り返される。つまり悪魔に対する嫌悪から地霊に向かうのである。(Arens). der du —— der は関係代名詞。du は先行詞を繰り返したもの。定動詞は würdigtest, kennest のように du に従う。

12f. würdigen —— mit Infin. und zu =geruhen. 畏くも...したまう。(Fischer). この場合は (vor) mir. しかしここはむしろ der du mich mir zu erscheinen würdigtest と解する方が、Faust の感情や考え方により相応しいように思われる。(Arens). つまり=der du mich würdigtest, mir zu erscheinen. 目の前に姿を現わすのに値すると私を見なす。Witkowski, Schöne も同じ意見である。der du mein Herz kennest und meine Seele —— der du mein Herz und meine Seele kennest. warum an den...schmieden. schmieden —— fesseln. (Fischer).

14. der —— 関係代名詞。先行詞は Schandgesellen. sich an et.[3] weiden —— 或物を見て楽しむ、面白がる。sich letzen —— sich laben, sich erquicken. 普段は飲食のことが考えられているが、verderben や rache に関しても用いられる。(Grimm). sich an et.[3] letzen. 或物で元気を回復する。

11－14. 同じようなことを Faust は、„Wald und Höhle" の中ですでに言明している (3217－19 u. 3241－46). ここで明らかに言われている地霊と

Mephisto との関係は、それについて Faust 文献で収拾がつかなくなるほど議論されてきた。Nacht-Szene であれほどきっぱりと Faust に背を向けた他ならぬ地霊について、「地霊は自分を出現に値すると見なした」(er habe ihn seiner Erscheinung gewürdigt)、と Faust がそれでもここで言明していることを、論者たちは構想の変更のもはや消し難い痕跡として説明しようと努めてきた (aber vgl. Kommentar zu 3217−50 !). Mephisto が地霊の使者であるというこの発言を、大抵は思い違いとして、即ち、Schandgesellen をやはり全く悪魔ではなく、Naturdämon とか、Elementargeist と考える Faust の自己欺瞞として理解しようとした。地霊の言葉 „Du gleichst den Geist dem du begreifst, ／Nicht mir !" (512f.) が、こうした見解のあと押しをしたようである。(Schöne).

15. Endigst du ? —— Bist du jetzt mit deinem Vorwürfen fertig? (Endres).

16f. Rette ! —— du に対する命令法。sie —— Gretchen. oder —— sonst. weh dir ! —— ひどい目に会うぞ！(お前に災いあれ)。Den gräßlichsten Fluch... —— (Ich wünsche, verfluche) den gräßlichsten Fluch... auf —— 期間。何千年にも亙って。Faust は自分の命令を、全く下らない脅迫と結びつける。しかしゲーテは思い上がった Sturm-und-Drang スタイルの、この大げさな馬鹿げた言葉には手をつけずに、ただ „entsetzlichsten" を „gräßlichsten" に変更しただけだった。恐らく „entsetzlich" は前に一度出ていた (S.137, Z.5) からだろう。(Arens).

18f. die Bande —— Pl. Fessel od. Kette. (Fischer). Rächer —— die weltliche Obrigkeit. 世俗の官憲。Römerbrief 13, 4：„...denn sie (die Obrigkeit) trägt das Schwerdt nicht umsonst, sie ist Gottes Dienerin, eine Rächerin zur Strafe, über den, der Boses thut." 従って Mephisto は囚人、裁判による罪人を救い出すことは出来ない、と主張するのである。(Arens). vgl. V. 3715. Rächer = Richter. (Königs).

19. Rette sie ! —— Rette sie, (sagst du?) war's —— war es. es は次行の関係代名詞 der の先行詞。Mephisto は Faust の命令を拒否する。彼女を不幸に陥れた者が、彼女を救わねばならないからである。„Ich oder du?" という止めを刺す問に、Faust は打ちのめされて沈黙する。(Arens).

21. umher|blicken. Witkowski, Endres, Trunz, Lange などはここを 1 行に数えている。Weimar 版は更に台詞を言う見出しの Faust, Mephistopheles を別行にしてこれを 1 行に数えている。Schröer もこれに倣っている。

22f. Greifst du nach dem Donner? —— 打ち砕く雷電の矢を投げつける天の支配者、Zeus の役を演ずるつもりか？(Schöne). nach et. greifen. Wohl, daß —— (Es ist) wohl, daß. er —— Donner. euch elenden Sterblichen —— Pl. 3 格。

24f. Den unschuldig Entgegnenden —— Urfaust では den entgegnenden Unschuldigen. entgegnen —— eigentlich entgegensein, entgegentreten, freundlich oder feindlich. occurrere (答える、異議を唱える)、begegnen (応対する)。(Grimm). sich verantworten. (Trendelenburg). antworten. (Arens). Mephisto はここで振舞っているような unschuldig ではない。(Endres). das —— 直前の zu 不定詞句。das ist so —— so das (=so etwas) ist. そのようなことは...である。 sich[3] Luft machen. 気晴らしをする。この zu 不定詞句は Tyrannenart にかかる。

ここは「今あなたは真実に堪えられないので、何の悪気もなく本当のことを答える者を、やみくもに打ちのめしたくなるのだ。だがあなた方死すべき哀れな者に、雷が自由にならないのは幸いだ」ということ。(Arens).

26. Bringe...hin ! —— du に対する命令法。hin|bringen. Gretchen のいる牢獄へ。(Lange). soll —— 客観的で強い要求。彼女はなんとしても自由でなければならん！=Ich will sie befreien!

27. die Gefahr, der[3]...? —— (gehst du hin trotz) der Gefahr, der...? od. (was denkst du über) die Gefahr, der...? od. (fürchtest du nicht) die Gefahr, der...? の意。

28. Wisse —— du に対する命令法。まあ聞きなさい。いいですか。Blutschuld —— vgl. V. 3715, Blutbann. (Schmidt). ここは Valentin の死と関わりがある。Blutschuld は法律上の専門用語ではなく、旧約聖書の神の掟である。vgl. 4. Mose 35, 33：„Und schändet das Land nicht, darinnen ihr wohnet. Denn wer blutschuldig ist, der schändet das Land ; und das Land kann vom Blut nicht versöhnet werden, das darinnen vergossen wird, ohne durch das Blut deß, der es vergossen hat." (Schöne).

29. Über des Erschlagenen Stätte —— Über der Stätte des Erschlagenen. rächende Geister —— ギリシャ神話の復習の女神 Erinnyen〔e'rinyən〕の同類。ゲーテは 1771年末にヘルダーに宛てて、非難の論評を揶揄しながら次のように書いている：„Der himmlische Grimm der rächenden Geister säuselt um mich herum." (Witkowski).

30. auf jn. lauern.

31f. Noch das von dir? —— (Höre ich) noch das von dir? das は上4行の Mephisto の言葉。einer Welt —— einer (ganzen) Welt. soviel wie es in einer Welt gibt.＝Mord und tod einer Welt (komme) über dich Ungeheuer! Führe... hin —— befrei と共に du に対する命令法。hin|führen.

33f. was ich tun kann, höre! —— höre, was ich tun kann! Habe ich alle Macht im Himmel und auf Erden? —— Matthäus 28, 18：„Mir ist gegeben alle Gewalt im Himmel und auf Erden." このイエスの言葉に対する当てこすり。(Königs).

35f. Des Türners Sinne —— Die Sinne des Türners. Türner, Turner —— mhd. u. md. ältere nebenform von türmer. der turmwächter (auf dem wacht- oder gefängnisthurme). (Grimm). 18世紀末まで Türmer の代りに一般に用いられた。今日の Turm の代りに Turn, Thurn が用いられたのと同じである。Turm は時折 Gefängnis にも用いられたので、この Türner は Gefängniswärter の意。(Endres). ゲーテが1771年と1773年に Türner と書き、1804年にはもう Türmer と書いているので、この場面が „Faust" の最も古い部分に属するという推測が正しいことを立証するものである。(Schröer). Frankfurt の嬰児殺しの Margaretha Brandt と同じく、市内の塔の中に Gretchen の牢獄があった。(Buchwald).

bemächtige dich —— du に対する命令法。sich eines Dinges bemächtigen. 或物を奪う。führe...heraus —— du に対する命令法。heraus|führen. mit Menschenhand —— ohne Zauber. (Schröer). Mephisto は魔法によって Gretchen をその独房から連れ出すことは出来ない、ということが前提になっている。Mephisto は Faust にす早く Gretchen の所へ連れて行き、看守をたぶらかすことは出来るが、救出は人間の手によって達成されねばならない。(Thomas).

37. Zauberpferde —— 移動の手段として魔法の馬が登場するのは、この場だけである。V. 2065, 6983では魔法のマントで移動する。(Thomas). entführen —— heimlich und gewaltsam wegführen. こっそりそして無理矢理運び去る、連れ去る。(Heyse). euch —— Faust と Gretchen.

38. Das —— 魔法の馬を用意して、二人を連れ出すこと。しかし Mephisto は法に基づいて有罪の判決を受けた囚人を、自由にすることは出来ない。(Arens).

39. Auf und davon ! —— Auf und davon (gehen)! さあ、出かけよう！